学校番号	306

平成 31 年度　社会科

教科	地理・歴史	科目	世界史 A	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　世界史 A　　新訂版　（清水書院）						
副教材等	明解図説　エスカリエ　八訂版（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・歴史とは人間の営みの連続であるということを理解し視点を変えて学ぶ。
・現代の諸課題を、近現代史を中心とする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	ユーラシアの文明と交流	1. アジアの諸文明 2. ヨーロッパの文明	○ ○	 ○	○ ○	○ ○	a: 各時代の文化の成立やその社会について関心をもち，特徴を意欲的に学習しようとしている。 b:各時代の時代背景や文明の成り立ちと特徴を考察し，自らの考えを適切に表現している c: 文献史料から情報を正確に読み取っている。 d: 各時代の制度や仕組みなどを理解する。	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査
2学期	一体化する世界	1. ヨーロッパの再編と大西洋世界 2. 拡大する欧米の衝撃とゆれるアジア・アフリカ	○ ○	○ 	○ ○	○ ○	a:各時代の制度や文化について意欲的に課題を追求している。 b:国家がとった政策を、歴史的背景や宗教をふまえ考察し自らの考えを適切に表現する。 c:それぞれの文化の特徴を、図説などを利用して理解する。 d: 各時代の制度や仕組みなどを理解する。	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査
3学期	現代社会と地球社会への歩み	1．世界戦争の時代 2．大戦後の世界と現代社会	○ ○	○ 	○ ○	○ ○	a: 各時代の制度や文化や冷戦前後の世界情勢と影響について意欲的に課題を追求している。 b: 大戦を引き起こした原因を様々な観点から考察し自らの考えを適切に表現する。 c: 映像資料などの情報を読み取り処理をする。 d: 各時代の制度や仕組み、出来事などを理解する。	授業態度 ワークシート 小テスト 提出課題 ノート提出 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。